

懸虹

(題字は名誉理事長直筆)

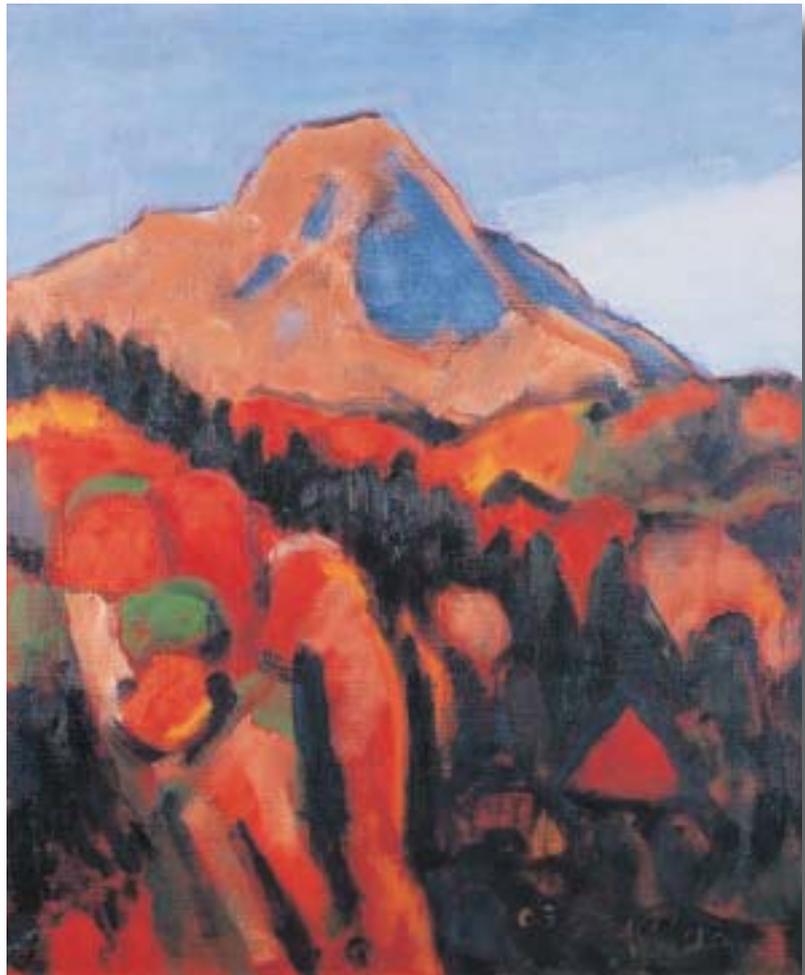


財団法人 星総合病院

特集

「小児科の診療について」

- DPC導入について
- くすりQ&A
- 立会い出産のすすめ
- 施設ニュース
- トピックス



土湯の朝 (F20、2003)
名誉理事長 星 一雄

醫

靈

近年、病院も様々な職種によって成り立ち、職種の細分化が進み、個別的な職種による専門性が求められている。その傍らで一つの治療を確立するために多くの職種による「コラボレーション」とチーム医療の必要性が問われている。

さて、循環器領域を見てみよう。以前は診断、検査だけであったが一九七七年にDr. Andreas Gruentzigが風船による血管治療を開発、臨床応用の後に全世界にカテーテルによる冠動脈形成術 (Percutaneous Coronary Intervention : PCI) が急激に広まった。また食生活の欧米化に伴う虚血性心疾患の増加でPCIの数も増え続けている。それに伴い治療する医師とその環境を維持するコメディカルのチーム医療の必要性が求められている。その環境は医師だけでなく、病院内の全ての職種の人たちの力で作っていかねばならない。全てのスタッフが一つの目標に向かって協力する体制が必要である。

病院の体制を確立させることにより患者さんのための医療の姿が見えてくる。みんなで目標を一つにし、患者さんのために周りの様々な施設との連携を取り、大きな地域単位でのよりよい医療チームを築き上げていくのではないか。

添田 信之

小児科の診療について



小児センター長
加藤 一夫

星総合病院小児科の現状と今後目指している小児医療についてお話をさせていただきます。

病院の小児科ですから、より専門性の高い小児医療としての機能の充実が求められています。外来を直接受診されたり、地域の先生からご紹介いただいた患者さんの診断並びに治療はもちろん、特に病院小児科ですので、入院を必要とする疾患の診断と治療のさらなる充実を目指しております。



食物アレルギーの診断と治療

現在特に力を入れている分野として、一つには最近増加傾向の著しい「食物アレルギーの診断と治療」があります。当院の特徴として、この分野では医師のみならず看護師ならびに栄養士も参加して診断と治療に当たるチーム医療体制を敷いていることです。一般病院では、診断と治療においてスキンケアの実際、アレルギー除去食の調理まで含んだ支援を行っているのはあまり例がないようですので、食物アレルギーの患者さんや家族にとって当院での体制は大変充実しているものと考えております。



質の高い医療の提供に向けて

その他、院内出生児を中心とした新生児医療、各種感染症医療、小児腎臓病医療などを行っています。また、小児循環器医療は福島県立医科大学の循環器グループの支援を、小児神経医療は福島県総合療育センターの支援をそれぞれ受けて、質の高い医療の提供に努めています。



さらなる小児医療の充実に向け「小児センター」を設置

さて、星総合病院小児科には、平成21年4月から「小児センター」設置に向けて体制作りを開始しました。これまでは、病院における小児科の役割として行ってきたことは器質的疾患の診断と治療がその大半であり、そして病気の中でも入院を必要とする場合にその必要性が特に求められてきました。しかしながら、社会環境がかつての伸びやかな時代と大きく様変わりし、なおかつ複雑化してきた現代においては小児と保護者が抱える問題は疾病ばかりではありません。そのいくつかが小児科医のかかわりを必

要としたり、それが最善の方法であったりすることがあり、それは決して少ないものではありません。

特に育児に関する悩みは核家族化の進行や地域社会での交流の希薄化などからかなり増加しており、それに応えるべく多くの情報が氾濫しています。しかしながら、量としては多すぎるほどですが、本当に必要としている正しい情報が少ないのが現状です。これは小児保健学の分野ではありますが、疾患治療の忙しい現場ではなかなか十分な対応がなされていないものと思われます。また、予防接種率の低迷という現状からは、予防接種に関する情報提供もまだ十分ではないものと考えられます。こうした小児と保護者を取り巻く負の環境改善に資するために「小児センター」との名称にし、その機能を十分にするための準備を始めたところです。これからの星総合病院小児科にご期待ください。

麻疹・風疹予防接種について

◆感染症の予防について◆

感染症の予防には、「感染予防」と「発症予防」があります。

「感染予防」とは、病原体が体に新入しないようにする対策で、手洗い・うがい・マスクの着用などを行うことですが、日常生活の中でこれらを完璧に行っていくことはそう簡単ではありません。ある程度の病原体の侵入が避けられないのが普通なのです。

病原体が弱毒である場合には、発症しても大事にはならず回復するのが通常です。しかし、それが強毒であった場合や抵抗力が落ちていた場合に侵入を許すと、発症が大きな問題となります。こうした際にいかにして発症を食い止めるか、発症しても軽い発症に食い止めるかが重要です。これが「発症予防」です。その方法の一つとして予防接種が行われており、これまで多くの感染症から人類を守ってきました。

◆予防接種について◆

我が国では、現代においても死亡率が高かったり、防御が困難な合併症を伴う感染力の強い疾患に対して、定期的予防接種が行われています。かつては強制接種でありましたが、諸般の事情から現在は強く推奨する予防接種となっています。今回はその中から、麻疹・風疹の予防接種について説明したいと思います。

※上記接種時期に該当する方は、接種料金が無料となります。

対象年齢外の場合：麻疹・風疹混合ワクチン 10,500円（それぞれ単独で接種する場合 6,825円）

医学・医療が発展した現在でも、麻疹・風疹に罹ると、死亡したり、防御困難な脳炎など怖い合併症が現れることがあります。

自分や家族だけでなく、周囲の人々の健康を守るためにも是非予防接種をうけましょう。

予防接種をご希望の方は、星総合病院 小児科外来までお問い合わせください。

◆麻疹・風疹の予防接種について◆

どちらも感染力が強く怖い合併症があることから、定期的予防接種対象となっていました。かつてはそれぞれが別々の時期に集団接種が行われていました。特に風疹については、その目的が先天性風疹症候群※の予防にあつたため、女子に対して接種をしていたからです。しかしながら、風疹は麻疹と同様に脳炎という怖い合併症があることから、男子にも接種することとなりました。麻疹も風疹も生ワクチンであるため2つのワクチンを合わせた混合ワクチンとなり、1回で接種できるようになりました。

※先天性風疹症候群…妊娠初期の女性が風疹に感染した場合、胎盤を通して胎児に感染し、難聴・眼異常・心疾患等の障害を持って生まれてくること

◆接種時期について◆

平成24年度までは通常のⅠ期（1-2才）、Ⅱ期（小学校入学前）に加えてⅣ期（18才時）までの接種が行われています。これは、大学などでの集団発生がきっかけでしたが、生ワクチン接種の効果が一生続くというかつての考えが誤解であったことが判明したことによります。それにより、Ⅰ期およびⅡ期の2回接種およびⅢ期（13才時）・Ⅳ期の接種時期が決められました。

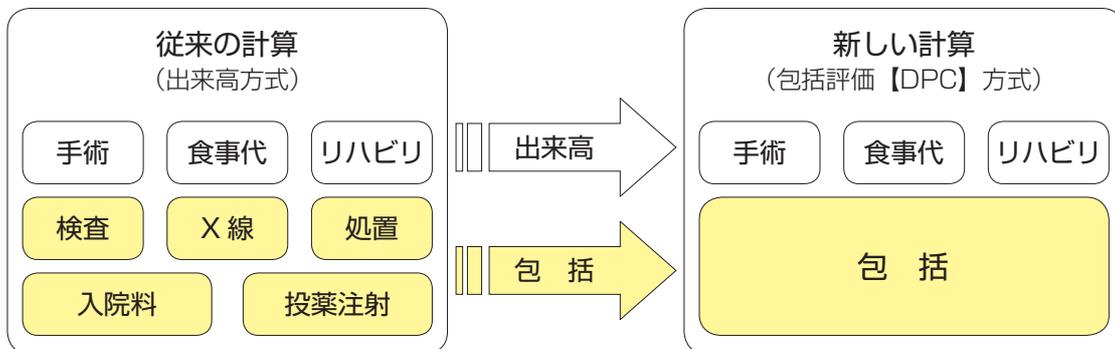
入院費の計算方法が変更となりました

星総合病院では、厚生労働省からDPC対象病院に認可され、平成21年7月1日より新しい入院費用の計算方法として「診断群分類別包括評価制度（DPC）」による入院費用の算定を開始いたしました。

DPCってなに？

従来は、診療行為ごとに計算する「出来高払い方式」をとっており、投薬・注射・検査・リハビリ・処置・手術等の医療行為と、看護基準等で決まる入院基本料を点数化し、それらを積み上げて行う計算方式でした。

新しい会計方式（DPC）では、病名と診療行為をもとに、厚生労働省があらかじめ定めた1日あたりの金額からなる包括評価部分と、出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、管理料など）を組み合わせで計算する「包括払い方式」となります。



DPCに関するQ&A

Q1 診療費の支払方法は変わりますか？

A1 基本的には変わりません。ただし、入院後、症状の経過や治療内容によって傷病名が変更になった場合には、入院初日にさかのぼって計算をやり直すことになり、請求額が変更となります。この場合、退院時、もしくは退院後に一括して金額の調整をさせていただくことがありますのでご了承ください。

Q2 診療費は高くなるのですか？安くなるのですか？

A2 入院中の傷病名、治療内容、または入院日数によっても1日あたりの診療費が変わる仕組みになっていますので、従来に比べて高くなる場合も安くなる場合もあります。

Q3 すべての入院が対象になるのですか？

A3 傷病名や治療内容によっては厚生労働省の規定により従来通りの出来高払い方式になる場合もあります。また、長期入院・労災保険等での入院の患者さんも出来高払い方式となります。

Q4 高額療養費の扱いはどうなるのですか？

A4 従来通り変わりません。

Q5 食料料はどうなりますか？

A5 従来通りのご負担となります。

*患者さんへのお願い

入院時に内服薬・お薬手帳の持参等についてお願いすることがあります。

お問い合わせ先

《医療・介護・福祉等》

《お会計に関する問い合わせ等》

1階医療相談窓口および3階総合相談室
病棟事務担当者もしくは1階会計

お気軽に
ご相談
ください。



お薬手帳を上手に活用して、 薬と上手にお付き合い！

■お薬手帳を持つ意味

例えば、

今日、Aさんは歯医者さんで抜歯したので、「感染予防の薬」と「痛み止めの薬」をもらいました。次の日「のどが痛く、熱っぽい」ので、かかりつけの先生の診察を受けて、「風邪」と診断されて、「解熱鎮痛剤」と「抗生物質」が処方されました。

ここで考えてみてください！

歯医者さんでもらった薬は「感染予防の薬」と「痛み止めの薬」。

かかりつけの先生からは「抗生物質」と「解熱鎮痛剤」。

もしかして、同じ薬では？

そのような場合に役に立つのが「**お薬手帳**」です。



「お薬手帳」の上手な活用法

●薬の飲み合わせのチェックに活用

薬の飲み合わせによって効果の現れ方も変わってきます。複数の病院や診療科を受診している場合や、市販薬を服用している場合は、医師や薬剤師にお薬手帳を見せて薬の飲み合わせをチェックしてもらいましょう。

●以前、飲んで合わなかった薬（副作用が起こってしまった薬など）のチェックに活用

薬を飲んで副作用がでてしまった場合、その薬とそのときの症状などを書き込んでおきましょう。いつもと違う病院や薬局でも、あなたに合わない薬を事前にチェックすることができます。

さらに、こんな場合に「お薬手帳」は役に立ちます。

○旅行や出張時に持っていきましょう

旅先や出張時に初めてかかる医療機関でも、普段服用している薬がわかり、適切な治療を受けることができます。

○医師や薬剤師に質問したいことがある場合

受診したときに先生に質問しようと思っても、なかなか言いだせない…。そんなとき、お薬手帳にメモしておけばスムーズに伝えることができます。

こうしたメリットを活かすために、おくすり手帳を上手に使いましょう。

こんな方はいませんか？

■お薬手帳を何冊も持っている

情報が分散してしまわないように、一人一冊にして情報をまとめましょう。

■同じ薬だからといって、お薬手帳を出したり、出さなかったり…

医療機関では毎回お薬手帳を提示するようにしましょう。薬の変更がなくても、どのくらいの期間服用しているかという記録も大切な情報です。

■市販の薬やサプリメントなどを服用している

最近、市販薬の中には、医療機関で処方される薬と同じ成分の薬（＝スイッチOTC）が販売されるようになっており、重複服用にならないよう注意が必要です。またサプリメントとの飲み合わせも注意しなくてはなりません。服用している市販薬やサプリメントの情報も記録しておきましょう。

「お薬手帳」を上手に活用して、薬と上手にお付き合いしましょう！

お薬手帳に関してご不明な点がございましたら、薬剤師までお気軽にお尋ねください。

立会い出産のすすめ

星総合病院産婦人科病棟
妊産婦グループ

「おめでとうございます！」「頑張りましたね！」「おめでとう！」

今日も分娩室ではこんな言葉が飛び交っています。中心には、幸せそうな笑顔で産まれたばかりの我が子を抱きしめるお母さんと、ウルウルした目でその姿を優しく見つめるお父さん、ちょっと不思議そうな顔のお兄ちゃん。素敵な立会い出産のワンシーンです。

お産は「汚らしいもの」？

一昔前、出産は男性が立ち会うことが避けられていました。家でお産があると仕事でも災いが起こるとされており、男性は出産の場に近づいてはならず、一緒の家にいることすら禁じられていた地域もあったようです。また、妊婦さんやお産をして間もない女性がいる家は祭りに参加してはならないなど、その地域によって多くの風習がありました。お産は「汚らしいもの」として考えられており、女性だけの場とされていたのです。この風潮は、ほんの20数年前まで残っており、立会い出産はもちろん、妊婦健診やマタニティークラスにご主人が同伴するということがほとんどありませんでした。多くの産院・病院が「夫立会いお断り！」としていました。

「女性だけのお産」から「家族みんなのお産」へ

しかし今、お産の場は時代とともに大きく変わってきています。「女性だけのお産」から、「家族みんなのお産」へ！それを象徴する出来事として、出産が近い妻を持つ男性に産休休暇を与える企業も増えてきました。また、当院でもほとんどが立会い出産を希望するようになっています。「陣痛のときも、夫に側にいてほしい」という妊婦さんも多く、ご主人の存在がいかに大きく心強いものなのかが分かります。また、立会い出産はお母さんに精神的な良い効果をもたらすだけではありません。陣痛の時から家族みんなで支え合って乗り越え、新しい家族が無事誕生する瞬間を家族みんなで迎えましょう。より強い絆で結ばれた家族の第一歩を踏み出すことができるはずですよ。私たち産婦人科病棟スタッフ一同は、精一杯そのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

ぜひあなたも素敵な立会い出産をしてみませんか？

次回からは、これから出産を控えている妊婦さんとそのご家族必見！当院のマタニティークラスをご紹介しますと思います。お楽しみに！

お問い合わせ

星総合病院
産婦人科病棟

施設ニュース

星総合病院

感染管理認定看護師誕生

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができること認められた看護職者を指し、(社)日本看護協会が資格認定を行っています。

星総合病院では、「皮膚・排泄ケア」、「がん性疼痛看護」、「乳がん看護」の3分野の認定看護師がすでに活躍しており、加藤和枝看護師が4人目の認定となります。



加藤看護師にインタビューしました

Q1 感染管理認定看護師の役割について教えてください。

専門的な知識と技術を用いて、患者さん、来訪者、すべての医療従事者、施設、環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるために、正しくかつ、効率的な感染管理を計画・実践・評価し、提供するサービスの質の向上を図ることです。

Q2 今後の抱負をお聞かせください。

感染対策は一部の人が実施しても意味がありません。星総合病院で働く全職員が「患者を守る、自分を守る、仲間を守る」事ができるよう、感染防止技術を“感染”させたいと思います。

星総合病院

ほっと☆ホット ボランティアコンサート 9月12日

ピアノとオーボエで結成された「アンサンブル・テックロ」によるコンサートが行われました。星総合病院の職員もオーボエで参加、「浜辺の歌」「少年時代」など計9曲の美しいハーモニーが披露されました。患者さんやご家族にご好評いただきました。



星ヶ丘病院

星ヶ丘フェスタ ~こころと心 ふれあいま Show ☆~ 10月10日

星ヶ丘病院において毎年開催している病院祭りの「星ヶ丘フェスタ」。今年は患者さんやご家族、地域の方々など約200名が参加しました。星ヶ丘保育園児によるお遊戯、地元団体によるうねめ太鼓やひよっこ踊り、歌謡曲などの披露のほか、食べ物のお店、作業療法作品の展示などを行い、多くの方々と賑わいました。



介護老人保健施設オリオン

小原田幼稚園鼓隊演奏慰問 10月20日

小原田幼稚園の147名による鼓隊が、「小さな世界」「ドレミの歌」「崖の上のポニョ」の演奏を元気いっぱい披露してくれました。演奏後にはプレゼント交換が行われ、園児より手作りのネックレスが、入所者からは手作りのきんちゃく袋がそれぞれ贈られました。



養護老人ホーム三春町敬老園

敬老会を開催 9月11日

入園者の長寿を祝い、今年度75歳以上を迎える51名の入園者を招待し、敬老会を開催しました。三春町より、喜寿・米寿・長寿の対象者に敬老祝い品が、80歳以上の方に敬老祝い金が贈呈されました。また、祝宴では「松蔚流舞扇会」による祝舞が披露されました。



地域医療従事者対象「第1回 定例研修会」開催 9月18日

地域医療のレベルアップに貢献することを目指し、地域の医療従事者を対象とした定例研修会を開催しました。郡山駅前ビッグアイで行った第1回定例研修会では、「医療安全について～医療安全管理を推進するための基本的な考え方～」をテーマに星総合病院の高野美智子リスクマネージャーが講演、40医療機関から計84名参加しました。今後年3～4回の開催を計画しております。



「福島県ワーク・ライフ・バランス男女共同参画大賞」を受賞しました

当法人では、働きやすい職場環境作りに取り組んできた結果、福島県が認証する次世代育成支援企業認証企業※の中でも「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」に関する取り組みが特に優れた企業として選考され、「福島県ワーク・ライフ・バランス男女共同参画大賞」を受賞しました。

受賞理由として、①育児休業取得率の実績が高く、女性は平成20年度以降100%取得、男性にもまとまった期間の取得者がいること、②休業中の従業員や管理職に対する研修制度が充実しており、休暇が取得しやすく、復帰しやすい環境が整っていること、③パートタイム従業員の均等待遇や性別に左右されない人事考課が実施され、また女性管理職も多い、といった点が評価されました。

11月18日にホテルハマツにて表彰式が行われ、星北斗理事長が出席、松本友作副知事より表彰を受けました。



※次世代育成支援企業認証制度とは…仕事と育児の両立支援や、仕事と生活のバランスが取れる働きやすい職場環境づくりに向けた取り組みを行っている企業について、福島県が認証する制度。当法人では平成17年度に「仕事と生活の調和」推進企業に認証されました。



「ピンクリボンin郡山」が設立されました

昨今、全国各地で乳がん啓発運動が盛んに行われておりますが、郡山市においてもピンクリボン運動を展開すべく、市内の日本乳癌学会専門医が働きかけを実施、「ピンクリボンin郡山」が設立されました。

実行委員長：星総合病院 野水 整 病院長代行 / 事務局：星総合病院

乳がん検診を広く啓発、受診率の向上と早期発見を図り、乳がん撲滅に向けた市民運動を継続的に展開していくことを目的としています。

「乳がん啓発キャンペーン「ピンクリボンin郡山」2009」が開催されました。

日時：10月17日(土) 13:30～17:30 場所：郡山駅前ビッグアイ7階

日本乳癌学会専門医による講演、乳がん体験者によるメッセージ、保健師による乳がん検診指導、乳がん看護認定看護師によるおしゃべりサロン、マンモグラフィ検診バス見学などが行われ、4会場で600名超の皆様にご来場いただきました。ピンクリボングッズの配布なども行われ、大盛況のうちに終了致しました。

来年度も乳がん啓発イベントの開催が予定されております。



星総合病院 絵手紙をいただきました

郡山市で活動されている「うつくしま絵手紙の会」の皆さまより絵手紙をいただきました。野菜や果物、花、人物など、やさしい色合いで一枚一枚丁寧に描かれており、温かみのある素敵な絵手紙です。院内に掲示し、見る人に癒しを提供していただきました。



地域行事に参加しました

赤木地区球技大会

(10月4日)(場所：郡山市赤木小学校)

赤木地区の各町内会対抗の球技大会が行われ、大重町内会の一員としてソフトボールおよびバレーボールの試合に出場し、地域の皆さんと交流を深めました。ソフトボールは見事準優勝を飾りました。



財団法人 星総合病院

HP <http://www.hoshipital.or.jp>

- 星総合病院
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3711
- 星総合病院 在宅介護支援センター
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目1番16号
TEL 024-923-3818
- 星ヶ丘病院
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6411(代)
- 星ヶ丘訪問看護ステーション
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-962-1711

●居宅介護支援事業所 星ヶ丘
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地
TEL 024-952-6414

●介護老人保健施設オリエント
〒963-0211 福島県郡山市片平町字峯三天2番地
TEL 024-952-6413(代)

●三春町立三春病院
〒963-7752 福島県郡山村三春町字六升時50
TEL 0247-62-3131(代)

●養護老人ホーム三春町敬老園
〒963-7704 福島県郡山村三春町大字熊耳字神山287
TEL 0247-62-3618

●ボラリス保健看護学院
〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字金堀田4番地
TEL 024-922-9105

●芳賀・小原田地域包括支援センター
〒963-8813 福島県郡山市芳賀1-16-1
TEL 024-941-1121

●星総合病院保育所
〒963-8501 福島県郡山市大町二丁目2-14
TEL 024-923-5550

●星ヶ丘保育園
〒963-0211 福島県郡山市片平町字北三天7番地3号
TEL 024-951-0788

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス
<http://www.hoshipital.or.jp>
発行／星総合病院
編集／「懸虹」編集委員会
発行日／平成21年11月30日
住所／〒963-8501
郡山市大町2丁目1-16

広報担当 菅野

今年度より懸虹の発行毎に、各施設広報委員に意見を聞いています。「各施設情報や医療・健康情報など様々な角度から豊富な「内容が詳しく分かる」「内容が詳しい」「見やすい」という意見がある一方、「文字が小さく読みづらい」「イラストも少なく、重要な文章に強調を要した方がよい」といった要望もありました。第三者からの意見を受け止め、見やすく分りやすい、そして愛される広報紙を目指します。

編集後記